KANAGAWA HOHYUH CLUB
神奈川放友会
Newsletter

Vol. 7 No.1 JAN.. 2014
第 25 号

神奈川放友会
〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地
ストーク伊勢佐木1番館 501 号
TEL 045 681 7573　FAX 045 681 7578
発 行 人　長 谷 川　武
発 行 日　2014 年 1 月 15 日

「医療専門職」統一の夢

会長　長谷川　武

“「過去を語り、現在を語り、未来を語る」憩いの館”が神奈川放友会のモットーである。初夢の一節を記す。

シニアが見た「初夢」は、医療専門職を統一することであり、専門職の拡散ではなく融合である。

それは「医療の担い手は医師・歯科医師、看護師、薬剤師、医療技師の四本柱であり、チーム医療による患者中心の医療サービスを施す」を呼びかけている。

医師以外の医療専門職に、医療行為の業務拡大を認め、もっと患者の側で活躍して貰い、患者サービスの向上を図るべきではないだろうか。

変革する医療に対して、すでに看護協会は患者中心の医療を展開して「特定看護資格」を進めて来ている。この提案は本格的に検討が進み、日本医師会の反対はあるものの「看護師が一部の医療行為が出来る制度の創設」として、41 の特定行為が挙げられ、業務拡大が認められようとしている。国会議員を送り込んでいる看護協会は、力と戦略がある。

一方、チーム医療が叫ばれる中で、医療専門職である診療放射線技師や臨床検査技師・理学療法士等のコ・メディカルには大きな改革の活動が見えていない。

期待し創設された神奈川医療専門職連合会の活動も、設立趣旨から一歩も前に進んでいないし、近頃では会の必要性までが危ぶまれる危機にある。医療専門職のチーム作りの最先端だったのに、何故なのだろうか？

医療専門職の領域は、それぞれの専門分野の職域で独立し分散しているが、医療専門職領域の資格制度の統一があれば、より国民医療に貢献できるのではないのか。

昨今は病院勤務医の待遇改善に主眼が置かれた、医師の業務負担削減策としての「チーム医療」が叫ばれているが、チーム医療の本来の目的は「医師の業務負担削減」ではないはずだ。しかし現状のチーム医療の促進は、むしろ医療専門職は軽視され起用されているので、すでに現場では医療専門職も疲れているのに疑問が残る。真の「医師の業務負担削減」は、チーム医療がうまく機能した結果として生まれてくるものであろう。

医療専門職は、かつては専門学校卒の「医師の補助職」だとの評価であったが、今や大学や大学院のコースを持つ高学歴の職域であり、その専門性とスキルは高いと理解されるので、医療専門職の再評価を願いたいものだ。

国民の医療への信頼と回復は、医療専門職が現場で専門性とスキルを発揮できる制度の改革にあり、診療放射線技師にも当然その発想と努力が求められている。

一本化した国家資格の「医療技師免許」で、現状の放射線部門や臨床検査部門やリハビリ部門等の幅広い業務範囲を担当しで活躍すればよい。

医師の場合は医師の国家資格を経て、全ての医療行為を担いながら専門医制度を導入している。コ・メディカルの医療専門職も、改革された医療技師制度による国家資格を創設すべきである。現在のような分断された医療技師制度の国家資格は、医療業務の制限が多く、医療技師のパワーを低下させ患者サービスを後回しにした業務制限を強いられるものである。むしろ融合した医療技師制度による医療行為拡大による活用の方が、患者中心のサービスにつながり、国民医療の担い手になり得ると信じる。

医師の人材不足を解消するためにも、新しい「医療技師」制度の導入構築が望ましいと思う。

２１世紀の医療を考える会のテーマであるべきだ。

昨年の参議院議員選挙では、診療放射線技師と臨床検査技師出身の両方が立候補しているが、結果は余りにも無惨な情けない投票結果だった。

「２１世紀の医療を考え、医療専門職の改革を目指す」ものであったと思うが、支援組織が出来ていなかったのだろう。医療専門職の連合会や政治連盟のような組織作りによる、大きなテーマで「医療専門職の改革のうねり」をつくることが不足していたと思う。医療専門職 OB の組織創設が、その役割を担ってくれるのではないだろうか。政治連盟のみでなく、技師会の OB 会組織の活動を考えるべきです。単体専門職のみの活動ではなく、医療専門職連合による議員獲得対策を模索してほしかった。

全国的な医療専門職の連合会や連盟組織を作り出せるなら獲得も可能であると考えたい。

公益社団法人を取得している技師会は、表面上選挙活動は出来ないのだから、国民の医療改革を御旗に掲げて、選挙活動が出来る神奈川放友会や神奈川医療専門職連合会のような全国任意団体組織の統一行動をとることが、国会議員対策を模索するための第一歩であり、みんなで挑戦したいものだ。これが初夢物語であった。

「島崎藤村の史跡を訪ねて」の報告

担当理事　小松崎　真一

平成25年度2度目の放友会イベントは平成25年11月9日(土)、大磯町で「島崎藤村、新島襄、西行法師」ゆかりの地の散策と、第2部として「ミニ講演（画像による島崎藤村の生涯）及び放談会」が行われたので報告します。

当日は、曇天でやや寒い日であったが、雨も降らずにまずまずの日和でした。東海道線大磯駅に午前9時に集合した7名は、大磯町のガイドボランティアさんの案内で、ほどなく史跡巡りに出発しました。

◇地福寺

大磯駅から、さざんか通りをしばらく行くと島崎藤村夫妻が葬られている地福寺に着いた。

寺の石垣が、藤村が好んだ小諸城に似ていることで、この寺に葬られるきっかけになった由。

地福寺門前にて

◇新島襄終焉の地

同志社創立者。NHKの大河ドラマ「八重の桜」の新島八重を奥さんとした新島襄が、大磯茶屋町百足屋で療養生活の後、逝去した地です。

新島襄の碑

◇鴫立庵(しぎたつあん)

西行法師が読んだとされている「こころなき　身にもあわれ　知られけり　鴫立沢の　秋の夕暮」があり、これが元となって後に「庵」とし、並んで「俳諧道場」があり句会、歌会として使用されている。

◇大磯駅

JR 大磯駅

歴代首相伊藤博文邸がある駅は、当時から現在迄ホームに商業目的の張り紙が貼られていないとは驚きでした。

◇旧島崎藤村邸

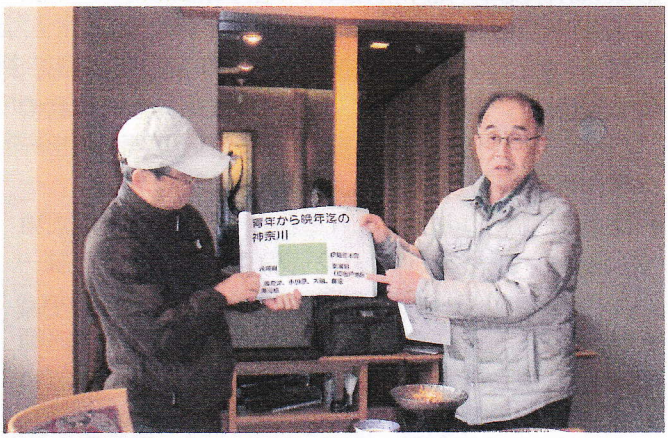
細い路地の住宅街をしばらく歩くと、藤村が亡くなる迄の2年ほど住んでいた旧島崎藤村邸に着いた。簡素で如何にも遠い昔の建屋の風情が感じられた。

邸宅の前にある休憩所でガイドさんの案内に暫し耳を傾けた後、旧島崎藤村邸に入り見学しながら質問のやりとりが続いた。

旧島崎藤村邸の一室で、藤村がここから庭を眺めくつろいだ部屋

◇ミニ講演会

正午からは食事処(みずほ野本店)で“画像による島崎藤村の生涯”についてミニ講演会を開催した。講師は小松崎理事による20分程の講演でした。周到に準備された紙芝居方式の資料で話された。本人の父親と藤村の関係などや、藤村のアルゼンチンへの渡航の話であった。



講演をする小松崎さん(右) と 助手を務めた村松さん

◇放談会

食事をしながら放談会へと進み、和気和気あいあいの時間を過ごした。予定時間を過ぎて終了し、平塚駅で解散。

◇終わって

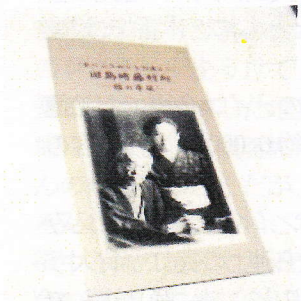
今回の様なジャンルを選んだことに、戸惑いを感じつつ終わった。しかし、技師の世界とは方向が違っていますが、極めようとする気持ちは同じだと思います。何かに挑戦しようと言うことの大切さを学んだ様な気がします。

「島崎藤村の史跡を訪ねて」に参加して

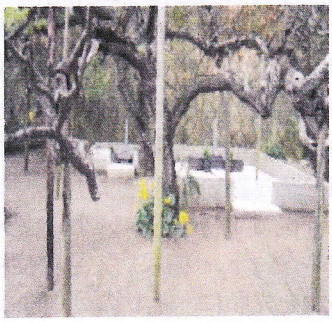
村 松 康 久(会員番号 32)

大磯の散策

11 月 9 日（土）、文豪島崎藤村が晩年を過ごした大磯町にある自宅と、死後葬られた地福寺周辺をガイド付きで訪ね歩いた。

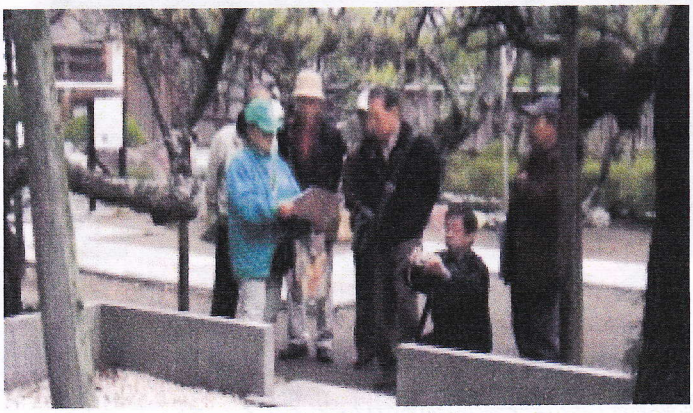


― 藤村ご夫妻の写真 ―



―地福時の歴史を感じさせる古木―

この日は曇り空で気温も低く風邪をひきそうだという参加者もいたが、ガイドさんの熱のこもった説明案内を聞いているうちにすっかり時を忘れ、2 時間があっという間に過ぎていた。



― ガイドの話に聞き入る参加者 ―

大磯はロングビーチと吉田茂くらいしか知らなかったが、今回の企画で、藤村が住んでいたことや明治の政界の奥座敷であった事を知ることができてよかった。また、伊藤博文や西園寺公望、陸奥宗光、原敬、大隈重信、岩崎弥之助、弥太郎兄弟、エリザベスサンダースホームの澤田ちか等の有名人ゆかりの地として、更に、ＴＶで放映中の「八重の桜」に出てくる新島襄の没した碑が建立されていて、八重もこの地で活躍したことをはじめて知ることができてとても勉強になった。

ミニ講演会

大磯の歴史探訪の後は、平塚の食事処に所を移し、小松崎理事力作の紙芝居風による、「藤村の生涯」の講演を拝聴した。ここで何故今回の企画に島崎藤村が選ばれたのかという事がわかった。

小松崎理事によると、小松崎理事の父上は、パラグアイ移民国の輸送監督として、南米リオデジャネイロに向かう航海の中で、約１ヶ月半偶然同じ船に乗り合わせていたとのことである。

一方、藤村は、南米アルゼンチンで開催される国際ペンクラブ大会に出席の目的で乗船していた由。この為、藤村との記念撮影とか彼のサインが小松崎家に残されていたとの事で、興味深いお話であった。

放談会

小松崎理事の 20 分に渡る講演の後、昼食と共に放談会が開かれた。

早速ビールで乾杯！本当に美味しいビールであった。大磯がこれ程多くの歴史上の大人物の地であった事を知ったからであった。満足感とビールのほどよいアルコールも加わって心地よい酔いであった。

参加者の面々も、同じように良い気分になっていたようで、軽やかに放談話が飛び交っていた。参考になる話も多々あった。

例えば、「一人で家に閉じこもっていると、どうしても“うつうつ”となりがちだが、放友会というよい薬があるから、どんどん参加した方が良い。」とか、「持病があるが、薬も酒も飲む。」とか、「毎朝 5 時に起きて公園で太極拳をやるので、73 歳になるが薬は痛風薬だけ、他は何も飲んでない。」あるいは、「朝 6 時半のラジオ体操は欠かした事がない。元気はつらつ、そのものだ。」また、「“痛風はビールで治せる”と、ある医学博士の資料によると、ビールより酒の肴の方が曲者である。」などなど、四方山話に盛り上がったのであった。

「歴史探訪と講演と放談会」の含蓄ある話題提供を設定して頂き、よき知識を得て有意義な一日であった。

参加者の満足度は高かったと理解した。

― 島崎藤村邸の入口にて―

阿波踊り・『合併症になら連』に参加して

管理栄養士　菊田　晴代（会員番号 152）

今年の 8 月 14 日、第 12 回「糖尿病で合併症になら連」阿波踊りの会が、徳島で開催されました。2000 年からスタートしたこの活動は、今年で幕を閉じることになり、これまでで最多の参加者とともに、最後の阿波踊りを楽しみました。

「糖尿病で合併症になら連」のちょうちんとうちわ

「糖尿病で合併症になら連」は 2000 年、管理栄養士の西村登喜子さんの呼びかけで活動をスタートしました。主なメンバーは、糖尿病患者さんやそのご家族・友人、医療スタッフの人たちで構成されています。口コミや糖尿病ネットワークを通じて広く一般から参加者を募集し、徳島市で行われる阿波踊り大会に毎年出場してきました。

踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら・・・

その目的は、阿波踊りを通じて交流を深め、お互いに助け合い、学び合い、楽しみながら糖尿病の合併症予防をすることです。

最後の開催ということもあり、今回の参加者は過去最多の 61 名に上りました。参加者の多くは徳島県以外の出身で、阿波踊りは初めての方が多いです。このような貴会がなければ阿波踊りに参加することもなかったという方がほとんどで、そのため事前に初心者向けの練習時間が設けられています。指導してくださるのは、地元の有名連「阿波写楽連」。踊りの指導とともに、本番ではお囃子で盛り上げてくださいます。

最大の見せ場は、阿波踊り大会のメイン会場である徳島市役所前演舞場での披露です。約 6,000 人の桟敷客の前を踊り抜いて行きます。

午後 6 時 15 分、いよいよメインイベントの踊り込みがスタート。「糖尿病で合併症になら連」の提灯と特大うちわを先頭に、踊りの列がゆっくりと会場に踊り込んでいきます。大観衆の中で緊張していながらもあっという間の 10 分を全力で踊りきりました。

「糖尿病で合併症になら連」最後の踊り

市役所前演舞場を後にした一行は、街頭で最後の踊りを披露。先ほどの緊張感は溶け、リラックスムードの中、のびのびと踊りを楽しみました。阿波踊り大会期間中の徳島市では、いたるところでお囃子が聞こえ、踊りの輪が自然と発生します。

猛暑の中、精一杯の踊りを披露した後は懇親会が開かれました。参加者は、徳島の名物料理を味わいながら、長い一日を振り返りました。疲れも忘れ、しばし今日の話に花が咲きます。懇親会では、発足から 15 年間、会のために奔走してきた西村会長をはじめ、協力、指導をいただいた「阿波写楽連」を代表して左東久史連長ら、関係者に対して感謝の花束が贈られました。

そして、宴はついにフィーナーレを迎え西村会長の合図でお囃子が始まり、最後の踊りの輪ができる。宴会場はたちまち阿波踊りの会場に。皆疲れているはずなのに、そんな様子は微塵もなく、今日の日を惜しむように踊りは続きました。

糖尿病があっても十分コントロールし、元気に人生を楽しもうと訴えてきた「糖尿病で合併症になら連」は、以上をもって閉幕しました。今後は、それぞれが糖尿病

の啓発活動を行っていくことを約束し、散会しました。最後の踊りは全員で。名残惜しさも手伝って、いつまでもお囃子は鳴り止みませんでした。

徳島空港に降り立つと、灼熱の熱気がムンムンしていて、少し離れた場所から鉦と太鼓の音が聞こえて来た。空港の表玄関で阿波踊りのデモンストーレーションがあり、徳島に着いたという実感がする。直ぐバスに乗り、宿泊予定のホテルに到着。地元の連の方により手際よく着物の着付けが済み、ホテルの広間で阿波写楽連の方々のレクチャーをうけて、バスで街にくり出した。目を見張るような熟練した地元の連に交じって、私達の『合併症になら連』も観客席の桟敷の前を踊り抜けて行く。ほんの数分間のことだが、華やかさ、緊張、汗、騒音、いろんなものがごちゃごちゃと私の周りを駆け巡って行く。街中を踊り抜けて、ホテルに戻ると、一息ついてから宴会の開始。この宴会が一番の楽しみなのです。ひとつは出てくる料理の食材の豊富さで、首都圏ではなかなか口に出来ないものもあります。今年は太刀魚の刺身を初めて食べました。そしてもうひとつお仲間の方々の出し物。今年は南京玉すだれで、その楽しい熱演で顔に笑いじわがいっぱい出来ました。

踊りの練習風景

今年が 12 回目で、この連は解散とのこと。

① 行事のための準備（衣装や宴会、その他）の量が膨大で非常に大変のご様子でした。継続していくのはなかなか困難で、止める時期を考えていらっしゃったようで、今回 12 回で区切りが良いとのことでした。

② 糖尿病の患者さまは増え続けていますが、この阿波踊りの連を結成した当時（2000 年）と現在の 2013 年とでは糖尿病の患者様の環境が諸々変化していて、サポート体制も情報量も以前よりは格段によい状況になっています。連の人達は他の方法で個々で糖尿病予防のサポートをしていくことができるとのことです。

毎年楽しみにしていたので、寂しい限りです。これまでの準備の大変さを思うと、関わってくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後の踊りを踊る参加者

もし同窓会が催されて、皆様にまたお目にかかることが出来れば非常に嬉しいです。

本当に、有難うございました。

＜阿波踊りの歴史＞

阿波踊りは、徳島県を発祥とする盆踊りである。日本三大盆踊りの一つで約 400 年の歴史がある。夏季になると徳島県内各地の市町村で開催される。

三味線、太鼓、鉦、篠笛などの伴奏にのって踊り手の集団「連」が踊り歩く。「えらいやっちゃ、えらいやっちゃ、ヨイヨイヨイヨイ、踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らな損々…」や「ヤットサーヤットサー」という掛け声に合わせて踊られる。

企業連などではこのほか商品名や会社名が入った独自のかけ声が使われたり、「1 かけ 2 かけ 3 かけて、しかけた踊りはやめられぬ。5 かけ 6 かけ 7 かけて、やっぱり踊りはやめられない」と言ったものも使われている。

また、「ワッショイ踊り」のような邪道踊りでは「ソレソレソレ……」等と言った単にやかましいだけや、バカ騒ぎをするためだけのものも存在している。

徳島県内の学校では、体育祭や運動会などで「阿波おどり」を演目として採用している学校も多数あり、授業で阿波おどりを経験した地元住民も多数いる。

地域住民の代表的な祭りである。

奥会津・白河の旅 —モニタリングポストと出合う—

長谷川　武(会員番号３)

2013年11月15日JR大船駅より7:22逗子始発宇都宮行きの電車に乗った。宇都宮駅の一つ手前の雀宮駅に10:00丁度に着いた。雀宮に住む群馬の同級生と待ち合わせていたので、彼の車で自宅へ案内された。

男二人で紅葉を楽しみながら、戊辰戦争の舞台となった会津若松城と白河城をマイカーで訪ねることにした。

一泊二日での奥会津・白河へのドライブは、初日は小雨模様であったが、徐々に晴れ上がり快適な旅だった。

初日のコースは東北自動車道の鹿沼ICから国道289のへつり・大内宿・芦ノ湯温泉」である。

○ **もみじ谷大吊り橋**：塩原温泉を流れる箒川の人造湖にかかった観光用吊り橋

○ **塔のへつり**：垂直の岸壁にできた洞窟、「へつり」とはこの地方の方言。眼前に大川が流れ風光明媚な所

○ **大内宿**：旧日光西街道筋に藁葺き屋敷の宿場街

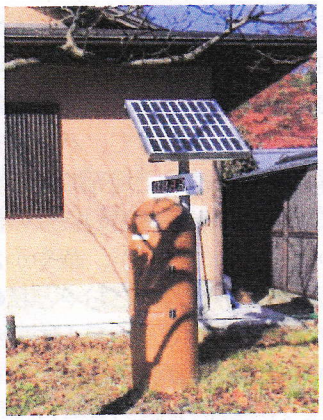
○ **芦ノ湯温泉**：不動「小谷の湯」に宿泊

二日目は芦ノ湯温泉を8:00に出て会津若松城へ直行した。江戸から明治に変わる歴史の変遷期・・・慶応4年(1868年＝明治元年・戊辰の年)旧幕府軍である東軍側についた会津藩などと、新政府軍である薩摩・長州藩を中心とする西軍が戦った「戊辰戦争」が起こった。

○ **若松城**：NHK大河ドラマ「八重の桜」にて、会津藩出身の新島八重の生涯が描かれているが、訪ねた若松城では、鎧甲姿の3人が出迎えてくれた。武装者が目前に映る城は、150年程前の光景を想い浮かばせた。

○ **背炙山高原**：会津盆地が見渡せるR374を走ることにした。背炙山高原を経て白河小峰城へ向かったのだが、あいにく高原は濃霧が酷く、期待した会津の街は見えなかったが、徐々に晴れて紅葉が楽しめた。

○ **白河小峰城**：この城は江戸幕府成立後、白河地域が会津領であった頃、城郭の大改修と城下町の整備が行われ、奥州の押えにふさわしい石垣を多用した平山城として完成している。しかし、戊辰戦争で落城している。また、美しい石垣と三重櫓が観光の呼び物でしたが、3.11の東日本大震災により石垣の一部が崩壊したため改修工事中であった。表門である前御門や三重櫓などの城内に、入城出来なかったのが残念だった。



東北本線白河駅に近い城の駐車場の広場で、モニタリングポストと出合った。0.288μSv/hを表示していたが、広場の掲示板は白河地区0.35μSv/hの広報であった。

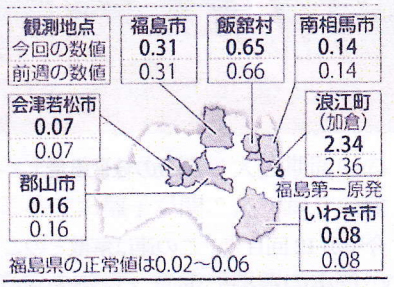
○ **南湖公園**：12時をまわったので昼食場所を市内の「南湖公園」と決め訪ねた。南湖は、名君であり茶人また優れた作庭家であった白河藩主により1801年に築造された日本最古と言われている「公園」だそうである。

日本庭園「翠楽苑」がある。池泉回遊式日本庭園で、書院造りの松楽亭や秋水庵があり、見事な日本庭園が紅葉の彩りで迎えてくれた。

この庭園の一角でモニタリングポストと出合った。計測表示は0.332μSv/hを示していた。

白河地域は、会津若松地域と比して4～5倍高い。

当日、現地の読売新聞による環境放射線量(15日午前9時)は、福島県内の主な場所での測定数値は右の表の通りだった。



モニタリングポストで見たのは白河地域の数値だったが、福島県の正常値と比べて高いことを確認した。因みに茅ヶ崎市：0.041　新宿区：0.036　市原市：0.032だったので、浪江町：2.34、飯舘村：0.65、福島市：0.31は、相当高い数値であることが理解できる。

○ **白河関所跡**：モニタリングポストを話題にしながら、白河関所跡に向かった。奈良時代から平安時代に機能していた国境の関で、奥州三古関の一つである。

新島八重の和歌に「帰らざることと知れどもいくたびか　おもいいたしてぬるる袖かな」の心情があり、白河関を和歌に「老いぬれど　又も越えなん　白河の　関のとざしは　よしかたくとも」と詠み込んでいる。

この後は、白河ICからJR宇都宮駅に向かった。約450㎞のドライブで、会津・新島八重と紅葉及びモニタリングポストを探った。

「食と放射線」－安全・安心への取り組み－“副読本” 販売広報

神奈川放友会も昨年 11 月 17 日で創立 6 周年を経過しました。

当時、全国・県技師会、地区技師会、研究会等の団体がある中で、新しく作る「神奈川放友会」は 1～2 年で消滅してしまうだろうと思っていた方が多くいたと思います。その会が創立 6 年を過ぎ、今年 7 年目を迎えられたのも、公益社団法人 神奈川県放射線技師会のご理解と会員の皆様のご支援があったからだと思っています。また、絶大なる会員皆様のご理解・ご支援があればこそ、役員の皆さんがボランティアで、会の運営に協力してくださったのではないかと思っています。

会費を取らず、購読料 500 円のみの負担です。年 4 回の Newsletter 発送と総会はがき代で 370 円、技師会の印刷機を使用させていただいていますが、残りが 4 コピー使用料金と用紙代そして封筒代等に回りますが、完全に赤字です。細かいことを書いて申し訳ありませんが、これが現状です。

放友会運営のアンケートを実施した経緯がありますが、会費を集めることに多くの会員が理解をしてくれましたが、現執行部は、これからも「会費なし」を貫き、活動を続けて行きたいと考えています。

放友会の活動は、News letter で身近な話題を提供し「憩いの場」としての役割を得たのだと思っています。

会員の皆様はお解かりだと思いますが、財政の厳しい時の News letter は白黒印刷でした。しかし一昨年の「食と放射線」500 冊発行で作成費用を払った残金が事業資金になったことと、引き続き会員の皆様からの「無理のない寄付金」や「行事参加者からの余剰金の寄付」「役員のボランティア」による運営で、昨年の Newsletter はカラー印刷でした。

今年も News letter はカラー印刷ができる予定です。投稿された方には大変申し訳ありませんが、白黒・カラー印刷はこのような事情で行われていたのです。

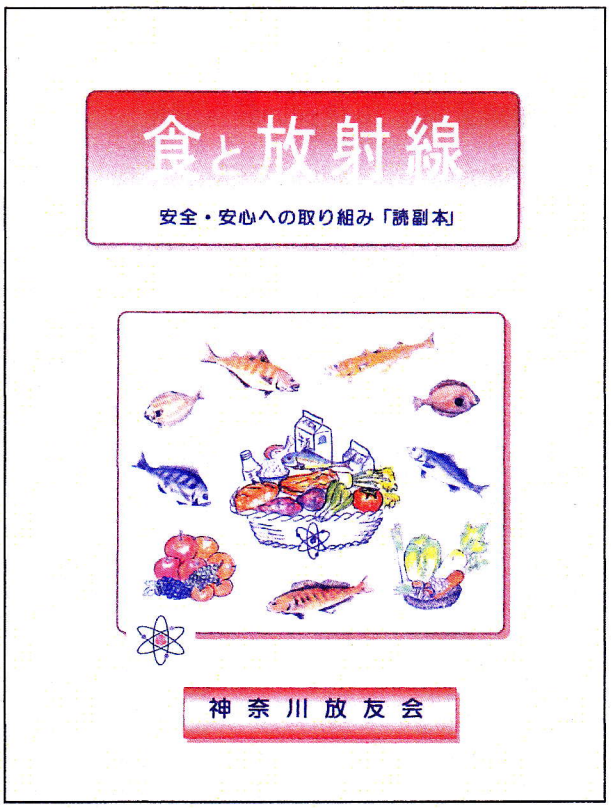
昨年 4 月に神奈川県議会議員団による、「福島県の食と放射線の安全・安心への取り組み」の視察に、神奈川放友会が同行することが出来ましたので、ここでの情報収集を踏まえ「食と放射線」－安全・安心への取り組み“副読本”－を企画・発行致しました。一昨年発行の姉妹編です。

皆様にはこの本は難しいのではないかと思われそうですが、原子力発電所が存在し、放射線照射された食品や汚染された輸入食品がある限り、「食と放射線」の知識や放射線被曝に関心のある方は、この本で「放射線の正しい理解」を深めて頂きたいと願っています。

お陰様で県民の多数の方々より好評を頂いておりますので、病院、企業にお勤めの会員の皆さんには院内・会社内での勉強会資料として、又、福島県の関係ある会員企業の皆様には、この本を福島県民に贈呈していただければ役に立つのではないかと思っています。

厳しい神奈川放友会財政の中で、借金をして A4 版 178 ページ、1,000 部を発行致しましたので、是非とも完売し、神奈川放友会活動の礎となる「事業費用」に当てたいと考えておりますので、全ての会員が購入されますようご協力をお願いいたします。

注文は電話・FAX で連絡してください。
1 冊 1,000 円 送料 80 円です。



代金は[本代 1000 円/冊＋送料 80 円]を「ゆうちょ銀行」口座に振り込み下さい。入金を確認後、クロネコ宅急便にてお届けいたします。

振込先 「ゆうちょ銀行 神奈川放友会口座」にお振込下さい。
・ゆうちょ銀行 [口座番号]
記号 00270 - 6 - 番号 53977
(払込取扱票:青色用紙)
ATM:80 円 窓口:120 円

〒231-0033 横浜市中区長者町 4-9-8
ストーク伊勢佐木1番館 501 号室
(公益社団法人)神奈川県放射線技師会内
神奈川放友会事務局

注 文 FAX : 045 - 681 - 7578
問い合わせ TEL : 045 - 681 - 7573

みんなの広場

叙勲受章おめでとうございます

昨年の 11 月 3 日に、平成 25 年秋の叙勲が発表されました。神奈川県内では 259 人が受章されましたが、その中の二人で、診療放射線業務に携わり保健衛生部門の功績により、元神奈川県立がんセンター放射線科技師長 松浦博文 (65) 氏及び元横須賀共済病院放射線科技師長 新倉政和 (66) 氏が、瑞宝双光章を受章しました。受章おめでとうございました。心からお祝いを申し上げます。

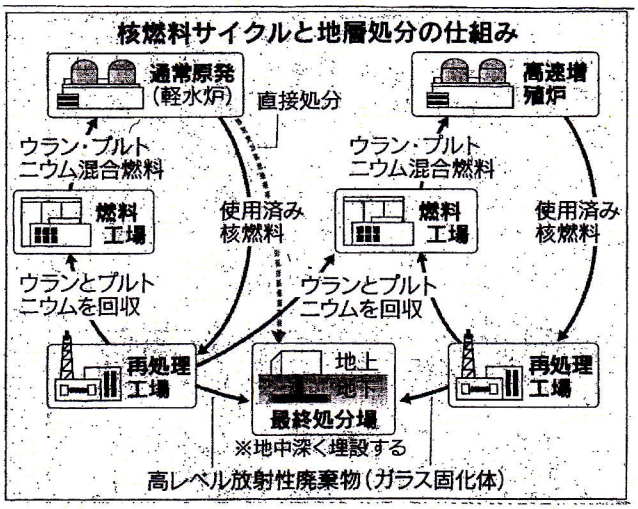
放射線量測定 10 倍速い装置開発

放射線医学総合研究所は、10 月 21 日、従来の約 10 倍の速さで放射線量を測定できる装置を開発したと発表した。手押し車のような形状とのことで、移動しながら広い範囲を調べられるとのことで、福島の汚染地域の放射線量測定にその威力を発揮しそうだ。局地的に高いホットスポットの効率的な探査が可能といい、復興の助力になるのではないかと期待される。

核のごみ処理をどうする？

原子力発電所から出る核のごみをどう処理するかについては、今後の原子力政策を占う意味でも大きな焦点の一つである。

11 月 26 日付の日経新聞によると、国は使用済み核燃料から再利用できる燃料を取り除いた後に地中深く埋める方針という。今後、埋設実験を進めるほか、放射性物質自体を減らす新たな処分法の実現に向けた研究開発も近く始まるとのことである。茨城県東海村にある日本原子力研究開発機構では、使用済み核燃料を地中深く埋設した場合の 10 万年後の安全検証実験に取り組むという。（下図参照）



15 年春、東北に医学部新設の方針が発表

文部科学大臣が 2013 年 11 月 29 日に、2015 年の春に東北に医学部を新設する方針を表明しました。

東日本大震災復興支援と医師不足解消のための特別措置と位置づけられて、１校のみの限定で認めとのことです。医学部の新設は、1979 年の琉球大学以来 36 年ぶりになります。卒業生が東北にとどまることを想定した、入試定員や奨学金を設け、①在宅医療など震災後の地元ニーズに合わせた、総合診療医や災害医療ができる医師の養成を進める。②卒業後は一定期間地元に勤める枠を設ける計画 ③教員となる医師は全国公募する。 などの条件で、今回限りの特別措置とされています。

すでに、仙台市の東北福祉大学と東北薬科大学が構想を発表しているようですが、新設を目指す大学や宮城県は歓迎し、準備を本格化させていると報道されている。

市場の福島県産の農畜水産物は安全！

「神奈川県議会議員団」が福島を視察

日本医療企画が病院・福祉施設などのフードサービスの向上に役立つ本として出版している、月刊誌「ヘルスケア・レストラン」2013. 6 発行に掲載される。

『平成 25 年 4 月 11 日（木）・12 日（金）、神奈川県議会民主党議員団(7 名)が、平塚市会議員(1 名)・診療放射線技師(4 名)・管理栄養士(1 名)・社会福祉士(1 名)の 7 名を同行して、合原康行氏（管理栄養士・元神奈川県栄養士会副会長）が議員団長で、農畜水産物の放射線検査の実態を把握するため関連施設を視察した。

東日本大震災後の東京電力福島第一原子力発電所の事故から 2 年以上が経過し、いまだに収束の姿が見えない現状を把握し、風評被害を払拭するため、自らの目で現場を視察し、福島における取り組みを、多くの人々に訴えていくことが重要と判断された。』

視察についての報告内容は、他の資料を参照下さい。

第 15 回 神奈川放射線学術大会

県民に貢献する放射線医療 ー読む力・治す力ー

・平成 26 年 1 月 26 日（日）　9：15 ～ 16：30

・横浜市開港記念会館　会員・非会員　1,000 円

『 市民公開講座 』　市民・学生　無料

「がん診療に対する国の取り組み」

早川 和重 先生　北里大学医学部放射線腫瘍学主任教授

「がん放射線治療の現状と展望」

中山 優子 先生　神奈川県立がんセンター

放射線腫瘍科部長

『 教育講演 』

・100%好かれる 1%の習慣-よりよいチーム医療をめざして-

・救急画像診断：これだけは押さえたい重要病態

・診療放射線技師の新たな役割と価値評価に向けて